

## 生きる喜びを妻へ。

松本教会 吉井啓泰さん

平成28年7月、吉井啓泰さんの妻・美代子さんが脳出血を発症。一命はとりとめたものの自由に体を動かすことも、話すこともできなくなってしまった。悲嘆にくれる日々だったが、ふと気づけば、まだ母親に甘えたい年頃の息子たちが寂しさに耐えてがんばっている。両親も懸命にサポートしてくれる。そして、誰よりもがんばっているのは妻である。「現実と向き合い、精一杯のことをしよう」と心が定まり、献身的にケアをしてきた。ほんの少量だが、口から栄養が摂れるようになり、こちらの投げかけに表情や声で反応するようになった。また、車椅子で散歩ができるようになった。なによりも「妻の笑顔がほんとうにうれしい」と吉井さんは語る。現在、もっと生きる喜びを与えたいという思いから、在宅介護をしている。「一日があつという間にすていく」というが、その顔は晴れやかだ。



## 人さまに喜ばれる人に

人知を超えた不思議な力のことを、よく「神通力」とか「神力」といいますが、私たちは、それを「自分には身につけられない特別な能力だ」と思っています。

しかし、私は、人間にとって最大の神通力は「心」をもっていること、と受けとめています。言葉を換えれば、人間の「心」の力やたらきが神通力だということですから考えてみると、心があるからこそ、私たちは人の気持ちが変わります。人が何を求めているのかも理解できません。特別な能力が神通力というよりも、人を思いやりたりする日ごろの心のはたらきが、神力といえるほどの力を発揮するということです。

これはある漫画家の話ですが、その方は著書で「人生で最大の楽しみは人を喜ばせること。漫画家になつたのも、全力をつくして人を喜ばせたかったから」と綴っておられました。それを讀んだとき、私は「この方は漫画をとおして人を喜ばせる菩薩さまなのだ」と感じると同時に、人に喜ばれる生き方を心がけていれば、だれもが自分のいる場所で菩薩になれることを教えていただく思いがしました。たとえ寝たきりの人でも、その笑顔や感謝の言葉で人を喜ばせることができるのです。それも大きな神力であり、菩薩のはたらきです。

# 立正佼成会